

遊戯におけるフラストレーションの表現

日本女子大学

児 玉 省
岡 野 伊 津 子
齋 藤 愛 子

ごっこ性の遊びは一種の空想遊びであつて子供は自分の環境をこの遊びの中に表現するのみならず、子供の必要、感情、動機を表現すると考えられる。こゝに子供が平生抑えている欲求、感情、態度がしばしば無意識の中に出てくる可能性があり要求阻止即ちフラストレーションが、この種の遊戯の中に表現される可能性があると考えられるのである。この仮定を実験にうつしてみたのがこの研究である。この研究の一部分は応用心理学会で発表した。これはアメリカでもハーバート大学の児童発達研究所に於いて、ロバートシアース教授がこの兩三年来研究中のもので、ワン・ウェイ・スクリーン

や自動録音機等の完全な設備を以てこれを実施しているが、私達の研究はそうした設備をもたず、もつぱら二人の検査者の手により一人は検査を他方は記録をとる方法をとつた。

研究は昭和二十六年五月に開始した。

実験装置は縦八〇糎、横一一九糎、高さ一五糎の住家の模型即ち庇接間、食堂、寢室、子供室とそれに玄関、台所、風呂場のついた

四間の約二十六坪の中流階級の住宅を想定して作り上げ、周辺は壁のように区切りをして、屋根なしの上から見下せる様にしたものである。なお、この模型の見本は、田辺氏の「新時代の住宅図集」の中のものをも参考とした。

この実験場面には、玄関―下駄箱。庇接間―テーブル、椅子、三角棚、額。寢室―タンス、机、スタンド、鏡、寝具。食堂―食卓、食器棚、食器、時計、ラヂオ、電話。子供室―タンス、机、木棚、ベツト。お手洗―便器。台所―流し、冷蔵庫調理道具。風呂場―風呂桶、すのこ、洗面器、バケツ。テラス―椅子、テーブル。などとそれらの部屋の雰囲気を出す小さな玩具をそなえ、砂場、乳母車紙、クレオンもそなえて子供が自由に遊ぶ様にした。又この家の住人として、父と母、少年、少女I、少女II、赤ちゃんの計六個人形と、犬の玩具をおいた。

対象とした子供は、主として四・五才の子供、約三十名で、日本女子大学児童研究所附近の子供と、附属幼稚園の子供である。

実験は静かな、刺戟の少ない室を用いた。こゝに連れて来た子供に、この設備が家である事を納得させ、人形は一々被験者の家族にあてはめて説明し、人形でも家具でも適当に好きな様に、操作してよい事を伝えあきるまで自由に遊ばせる事にした。

記録のためには、実験者の一人が子供の行動、質問、言語を被験者に知られない様に時間を記入し乍ら記録し、他の一人は被験者の話しかけに会つちをうち乍ら前もつて準備した平面図に子供の行動を線であらわした。

尚、実験は大體一人に二回づつ行つたが三回づつのもも数名いる。

子供は最初この場面に接すると、非常な好奇心を以てあらゆるものを取り上げたり、質問したりするなど、探求をはじめめる様である。そして一通り好奇心的探求行動が終ると今度は特に人形をとり上げて、人形に色々の活動を演じさせる。時には自分を人形の一つにしている事もあり、又自分も人形にならず人形をあやつる存在として居る事もありその両方の役割りを演じて居る事もある。又私達はこの実験の前後に家庭訪問をして、調査用紙及び面接により、家庭のしつけの方針や状態を聞きまたひそかに観察をして、その実際のしつけに関する情報を得た。こうして得た知識と、被験者から聞いたことを一緒にして考察すると子供が家庭に於て示している行動とまた同じ子供が、実験の遊戯場面に於て示した人形をあやつる行動との間に、次の表に於て示すような関係が存在するのではないかと推察せられるのである。この実際家庭に於ける行動と実験場面の行動の連関は表では数字を用いて示した。上欄下欄の同一数字が

関連性を示すものである。

例 I 被験者 男 5才4ヶ月

家族 父(33才大学卒) 母(33才高女卒)

兄(10才) 弟(8ヶ月) 叔母(23才)

遊戯場面に現われた行動		家庭に於ける場面	
①	● 父を一番下におきその上に他の人形全部を重ねる ● 父と兄を喧嘩させ父を負けさせる。 ● 父の肩の上と顔の上に犬がのる。	①	● 父は子供をあまり叱らず、一緒に外出する事も遊ぶ事も少い。
②	● 兄の上に車をのせてひく ● 兄の顔の上に犬をのせる ● 兄の足を玄関の戸の穴に入れる。	②	● 本人は兄からいぢめられる
③	● 犬が母をふみつける。	家庭訪問で聞き出す	
④	● 母が赤ちやんを冷蔵庫の中に入れる。	①	● 父は夜帰りがおそく酔つて来る事が度々で帰宅せぬ事もある。
⑤	● 風呂の中に犬を入れて蓋をして上に人形全部をのせる。	①	● 父は母と姉達との間がうまく行かなかつた時積極的に母を助けなかつた。

② ●兄は反抗性強く、利己的で現在地方の特種学校にいる
③ ●弟は生後八ヶ月でいつも母にだかれたりおんぶしたりしている。
④ ●本人は弟がいないと母に甘えようとする。
⑤ ●本人は犬をこわがる。

父人形をいじめるのは、父に対する反感を暗示し、兄人形をいじめるのは兄に対する反抗や反感を暗示していると思われる。又この子供は母親の弟に対する態度に明らかに嫉妬をもっているらしくその表現が赤ちやんを冷蔵庫の中に入れてさせ、犬に母をふみつけさせていると考えられる。又犬に対する恐怖からか、犬を風呂桶の中にとち込め様としている。

例Ⅱ 被験者 女 5才2ヶ月

家族 父(36才 高校卒) 母(30才 高女卒)

兄(6才) 弟(3才)

遊戯場面に現われた行動	家庭に於ける場面
① ●一回目二回目を通じて弟人形を使用しない。	① ●弟とは遊ばない。
② ●兄は、一回目には全く使用調査用紙	

<p>せず、二回目に皆の食後に始めて使用する。</p> <p>③ ●遊戯中は無中になつて長時間興味ありげに無言で行動する。</p>	<p>① ●兄弟よりも近所の友とよく遊ぶ。</p> <p>② ●兄弟からよくいぢめられる</p> <p>家庭訪問で聞き取る。</p>
<p>① ●弟が生れた時当人を女中につけたがひどく嫌がつた。</p> <p>① ●弟の出生後、田舎にあずけたが、その時から家に帰ろうとしなかつた。母が迎えに行つた時顔をそむけた。</p> <p>③ ●一人で屋内で遊ぶのが好き針と糸で長時間遊んでいる</p> <p>① ●弟とはあまり遊ばない。</p> <p>③ ●幼稚園では一人でいる事が多く友達がない。</p>	

この場合も表の上段と下段とを同一番号で結んだ様な関係が想像出来、弟人形を一度もとり上げない行動は、この子供が弟の出生によつて母をうばわれたという嫉妬の感情がそうさせて居り、これと関連して母にも反感をもつていられると考えられる。この実験調査を通して本人は内向性の性格であるが、弟への嫉妬がこの子供の性格を全面的に歪曲させているか、或はその両方であるかが考えられる。

又、兄人形の使用回数が極めて少なかったのは兄からよくいじめられる為に好ましくない感情をもつている事を暗示している。即ちプラスチックが、消極的な進取性行動としてあらわされているものと考えられる。この研究の結論をのべると、

1、遊戯場面に於ける進取性行動が子供のプラスチックにもとづく行動である可能性が充分にある。

2、けれども或進取性行動はこの研究だけで言うとは、必ずしもプラスチックにもとづいてると断定しえないものがある。

3、しかし、その進取性行動がプラスチックに関係ないにしても、家庭のしつけの反映であると信じられる理由がある。ことに家庭が全然しつけらしいものを与えず、子供が自制心をもたず家庭の内外で我物顔にふるまっている行動は遊戯場面にはつきりとあらわれている。

4、又プラスチックのあらわれ方は必ずしもいちじるしい進取的形式をとらず退嬰的活動或は消極的進取性行動、前述例の場合見られるように自分が敵意、反感をもつ兄弟人形を全然とり上げない形式をもつて表現されているのが見られる。

5、又これらの不適応現象の表現は設定した遊戯活動の全部にわたつて表現される可能性もあるが実験に於ては極小部分にのみあらわれている。この事は日常生活にもプラスチックが小部分にあらわれている場合と相応するものである。

6、プラスチックの原因となつた人物をあらわす人形については、大体それが何をあらわすかを推定出来た。けれども時によると現実にそくせず、想像的対象を持出す可能性が考えられる。

7、この実験を更に確認するには、子供の家庭の現場でくわしく観察し、両親の意見行動についてもつとくわしく知る必要がある。

8、しかし全般として云うとこの実験でとつた方法は子供の不適応現象を検出するのにかなり有効である。即ち親のいう所、子供の云う所などからは想像又は観察出来ない事をこの実験は或場合ばかりしていると思う。

なお、遊戯場面にあらわれた行動を分析すると大体次の様になる。

一、人形に対して

1、好意的……父人形に子供人形をだかせる。父母人形にお茶を出す。子供人形同志肩をくませる。赤ちやん人形を静かにねかせる等。回数—16回 全行動の0.3%

2、非好意的

i、無視……父人形だけいつまでも風呂の中におく。兄弟人形を全然使用しない。仲間はづれにする等。回数—8回 0.3%

ii、進取性……父人形を風呂に入れ蓋をする。兄人形と父人形と喧嘩させ、父を負けさせる頭に砂をかける。母人形に他の人形を叱らせる。赤ちやん人形を冷蔵庫に入れる等。回数—32回—1.2%

二、設備器具に対して

1、進取性、破壊性……クレオン、スプーンを折る。投げる等。回数—8回 6.3%

2、好奇心的、遊戯的……設備器具への関心(実験者に質問する取り上げてみるなど)動物への関心。遊戯的(砂をいじる。風呂バケツ、車などに砂を入れる等。回数—119回 41.3%)

- 3、美的：家具を細く観察する。不足破損を指摘する。絵をかく等。回数62回 2.4%
- 4、身だしなみの……風呂に入る。更衣、服装をなおす等。回数191回 9.3%

幼児のこゝろ

名古屋市立保育短期大学

甲斐久生
渡邊紀久子

一、目的
 幼児の言語生活の実態を調査して、幼児の言語発達や言語の習得状況を知り併せて、日常のことばづかいや陥り易い言語の欠陥などを洞察し、正しい言語環境の在り方や幼児の心理的発達に即してことばの補導も考えて行き度いと思う。第一回の実態調査は保育園に於ける知能普通児を調査対象としたものである。

二、調査の方法と対象

午前九時より正午までの自由あそびの時に話す三十分の言葉を精

- 5、生活的・美的：食事、掃除、洗濯、寝る、便所、手洗い、会話、あいさつ、勉強、読書等。回数108回 41.4%
- 右は10例の行動を分析分類したものを参考としたものである。

密に観察記録し、それを基として結果をまとめた。記録を取る日はあそびが自由に出来る晴天の日に行い子供が動き廻っている後を目立たないようにしてつけて廻つた。記録の期間は一昨年十月から昨年の二月迄でこの調査は大体昨年の七月までにまとめたもの報告である。調査にあつては同一語をくり返し使用する場合同一語を除いて異つた語だけを計算した。対象児は満三、四、五、六才の名古屋の保育園々児で、三才児約二十名、四才児約二十名、五才児三十名、六才児三十名、計約百名である。ここに掲げてある数字は、第二表、第五表をのぞく他はすべて言葉の実数を示すものである。